（別紙様式２－２）　　（高等学校用）

熊本県立八代工業高等学校（全日制）　平成２４年度学校評価表

１ 学校教育目標

「学力の定着」、「規範意識の育成」、「進路保障」、「人間尊重の精神」を基底に置き、校訓「誠実」を核として、知力・体力・人間力を磨き、自立して未来を拓く主体性のある生徒を育成することを目指すとともに工業高校としての使命を果たし、社会を支え、発展させる人材を育てる。

①基礎学力の定着　②生徒指導の充実　③進路指導の充実　④工業教育の推進　⑤環境問題をはじめ、公共の精神を養う態度の育成　⑥部活動等の充実　⑦地域社会に期待される学校づくりの推進

２ 本年度の重点目標

①理解が十分でない生徒への支援を行い、学力の底上げに努める。適切な教材を研究し生徒への還元を図る。自宅学習時間の確保への工夫。
②問題行動の予防に努める。挨拶の励行を推進し、活気ある学校づくりに努める。欠席・遅刻のゼロ運動。交通ルールの遵守。
③面談を通しての自己理解の推進と早期目標の決定。学力の高い層を伸ばし意欲を進路に繋げる。国公立大学への受験者の早期発掘と計画的指導。２桁合格者の実現。生徒、保護者への的確な進路情報の提供。
④ジュニアマイスターの倍増計画。工業関係各種大会の成績を向上させる。中学生体験入学の充実。広報活動の強化。
⑤学校版環境ＩＳＯへの取組推進。学校環境美化と校内清掃の徹底。
⑥部活動の充実による学校活性化。メリハリある練習を行い、文武両道を目指す。
⑦校内外清掃活動や奉仕活動を通じ人間教育を高め、地域への貢献に努める。地域の要請に積極的応え、地域の学校としての使命を果たす。
⑧保健、安全教育の充実。人権教育の推進。教材研究の実施。学校目標を全職員が共有化し、教職員としての使命感と自覚をもち協力して組織体として教育活動にあたる。

３　自己評価総括表

評価項目 大項目	評価項目 小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営	学校目標及び重点目標の共有	学校の教育目標及び本年度の重点目標の周知徹底	教職員､生徒･保護者等へ説明し､教職員･生徒には90%､保護者には80%以上の認知度を目指す	職員会議、全校集会、ＰＴＡ総会、学年保護者会、地区懇談会、三者面談、学校新聞等で本年度教育方針等の説明	B	年度当初、学校教育目標を職員会議で周知し、保護者にもＰＴＡ総会、学年保護者会等で説明している。学校目標の保護者への認知度は、82%、教職員は96%であった。
	学校マネジメントの充実・強化(組織的活動の確立)	各部、各科の目標達成に向けたマネジメントを確立	各部・各科における自己の役割認識と組織体の一員としての自覚と使命感を身に付ける	定期的に各部、各科の連絡報告会を開催し、目標達成に向けた進捗状況と今後の対策の確認	B	各科の連絡会は定期的に行われたが、各部の連絡会は、放課後の時間的制約もあり定期的に行えなかった分掌部もある｡各部の取組は計画通りできているが、職員の意志の疏通も必要である。
	教育環境（施設・設備）の充実と積極的な活用	実践的で教育効果があがる教育環境整備	実習内容の充実と高度化に向けた施設設備を検討する	産業社会の施設設備の現状を調査させる。企業での研修の実施	B	実習設備に老朽化が目立つ。日頃の点検整備に心がけるとともに、各科の要求順位の検討と永続的要求も必要である。
		働きやすい環境整備	週１回、身の回りの環境整備を実施	職員室・各管理室の清掃・整理整頓の徹底	B	職員室の整理整頓は昨年よりよくなったが､まだまだである｡個人差が大きい。
		現有する施設・設備の活用と点検	施設・設備の安全点検と整理整頓の徹底	学期毎に施設設備の安全点検簿の提出	B	学期ごとの安全点検はできていた。
	安心・安全・満足を目指す教育活動の徹底と開かれた学校づくり及び広報活動の充実	PTA総会､体育祭､文化祭へのＰＴＡ・中学生・地域住民の参加促進	PTA総会は出席率90%以上、文化祭には300人以上の来客者数を実現する	教務部、各学科、進路指導部、生徒会等を中心とした広報活動（ＨＰの充実と学校便りの送付等）と積極的マスコミ活用	B	ＰＴＡ総会の出席率は92.7%であった。また、体育祭への参加は多かったが、文化祭の来客数は少なかった。学校ＨＰは更新も早く、学校情報を発信できた。

評価項目 大項目	評価項目 小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学力向上	教職員の授業力向上（わかる授業の実践）	生徒の実態把握と意欲を引き出す授業の創造	基礎学力の向上と学習習慣の定着	年間指導計画の実施状況を学期、月毎にチェック 学力不足の生徒への補習の実施 朝・放課後を利用した細やかな指導の徹底	B	朝課外は実施出来ているが、資格取得の勉強に割り当てることもあり、基礎学力向上のための時間が不足している。 放課後は部活動もあり、学力不足の生徒の補習は定期考査前になりがちで、朝の課外の内容も検討課題である。
			各教科の中堅教員の研究授業の実施	生徒アンケート調査、「生徒による授業評価」の実施による実態調査 各教科最低１回の研究授業を行う	B	生徒アンケートで「授業は丁寧で分かりやすい」と答えた生徒は7割であった。あとの3割の生徒への対応と、授業研究の実践が必要である。各科最低1回の研究授業は完全実施できなかった。
	専門性を深める教科外活動の実践	専門性深化に向け、難易度の高い資格取得に挑戦	資格取得の全国ベスト10入り（各科10人以上のｼﾞｭﾆｱﾏｲｽﾀｰ獲得） 生徒研究発表の入賞	各科・学年部が連携し計画的、継続的な指導 朝・放課後・長期休業中を利用した資格・検定課外の実施	A	専門性を生かした資格や検定に、各科とも熱心に取り組んだ。科からはもっと合格率を上げるためには課外の時間の確保が必要との意見もある。
	「ものづくりは人づくり」の充実	創造性を育てる製品づくり、基本技術を習得させる。 施設・情報等の相互乗入による共有化	「ものづくりコンテスト」「マイコンカーラリー」「アイデアロボットコンテスト」等の各種コンテスト入賞	大会出場者の徹底指導 指導者の技術力向上に向けた研修の実施 必要に応じて、学科を超えた指導	A	高校生ものづくりコンテストでは電気工事部門、電子機器組立部門で九州大会出場を果たし、マイコンカーラリーも全国大会へ3名が出場した。生徒研究発表大会では電気科が県工業連合会賞を受賞し、インテリア科も各種コンテストに入賞を果たした。ただ、予算や指導時間の確保など課題もある。
			課題研究の充実	生徒の興味関心に合った研究継続型課題研究の検討	B	限られた予算の中で深化させるには内容の検討が必要である。
進路指導	キャリア教育の充実と強化	生徒・保護者への的確な進路情報の提供と目的意識の啓発	進路だよりの充実	進路だよりの定期的発行	A	毎月の発行ができ、生徒への情報提供ができた。
			高度専門技術者・企業人による進路ガイダンスを実施する	学年毎の啓発活動の実施（学年進路講話等） 保護者向け進路講話の実施 インターンシップ、地場企業研究の実施	B	学年ごとの保護者会で進路講話を実施できた。進学について1年の早い段階からの進学指導を望む声もあり、進学説明会を早期から行う必要性がある。インターンシップは地場企業から概ね好評を戴いているが、受入企業は減少している。
	高レベルの進路実現（伸ばす教育の実現）	きめ細やかな進路相談と学習指導	第１希望の就職内定率90％以上	進路部、学年、各教科の連携によるきめ細やかな指導	B	就職内定率90％以上は実現できなかったが、大手企業にも多数内定を得た。
		生徒の希望に応える進路指導体制の確立	難易度の高い企業、大学等への合格者増	学年毎の計画的な進路指導計画の作成と実践 就職指導体制（課外等）の実施 進学指導体制（課外等）の実施 公務員指導体制（課外等）の実施 個別指導体制の充実各種模試（学校独自を含む）の実施 積極的な情報収集と有用な参考資料の作成・提供	B	就職・進学ともおおむね良い結果を出している。進学、公務員朝課外は定着しており、担任や教科による口頭試問等の指導が実を結び、本年は国立大学に６名が合格した。また、公務員も７名が内定を得ている。更なる進路実現のため、生徒の現状に応じた個別指導体制の確立と実践について、指導等の見直しや改善を行う必要がある。

評価項目 大項目	評価項目 小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
生徒指導	品性を育てる	心のこもった挨拶や言葉遣い、礼儀、マナー、さわやかな服装等の習得	服装再検査者の減少場に応じた行動を心掛ける	毎月の服装検査、指導 職員からの挨拶運動 生徒会による校門での挨拶運動 ＰＴＡや地域と連動した生徒指導 生徒会活動を通しての生徒指導	B	毎月服装検査を実施しているが、毎回不合格になる生徒もおり、継続した指導が必要である。服装に関する決まりについては生徒の５割しか理解できていない。 生徒会による挨拶運動は全員朝課外参加のため実施しておらず、生徒指導部を中心として実施してきた。以前よりも挨拶ができるようになったとの声もある。
	社会で必要とされる心構えを習得	働くことの意義を知り社会人に求められる基本を身に付ける	毎月の欠席・遅刻のゼロ運動（学級目標の設定） 交通マナーの遵守 家庭との連携強化	職員による校門指導 毎月の集計結果を生徒や保護者に公表し家庭との連携を強化する 交通安全指導の徹底	B	遅刻数は、生徒や保護者には公表していないが一昨年、昨年と確実に減少してきた。交通マナーについては、地域の方からの苦情がしばしばあり、そのつど生徒に注意を喚起している。交差点での自動車との軽微な事故も数件発生している。
	校訓「誠実」の涵養	「誠実」の徹底指導と定着化と母校愛を育む	問題行動を昨年より減少させる	校訓「誠実」の精神に則って、行動できるよう、学年集会をはじめすべての学校活動において生徒の自覚を促す。	B	生徒は全体的には落ち着いているが、問題行動数については、昨年と同程度であった。特に問題行動をとる生徒には校訓「誠実」の精神が希薄である。
			学校内外の清掃活動を通して、豊かな心を育む（年最低１回）	校内・学校周辺・利用駅等の清掃活動 善行については積極的に紹介する	C	校門前の掃除はできているが、一部の部活動生や生徒会のみの活動に終わっている。年１回は、全校生徒で行う学校周辺、利用駅等の掃除を計画する必要がある。
	問題行動や悩みを持つ生徒への適切な対応	種々の理由による中途退学者や不登校者の把握	中途退学者、不登校生徒が前年度を下回るよう、細やかな指導の徹底	担任や学年主任等による家庭訪問により個別対応機会を充実する	B	中途退学者、転学者数は昨年と同程度である。担任の頑張りに頼っている感もあり、学校全体で取り組む体制作りが急務である。
人権教育の推進	人権教育推進体制及び人権教育の充実	全教職員の人権教育実践力の向上	年１回以上の校外研修会参加と校内研修会を実施する	人権教育研修会等への参加 人権教育推進係で企画立案し開催する	A	職員全員の年１回以上の校外研修参加と年２回の校内研修、人権レポートの提出は実現できた。
	全ての教育活動を活用した人権意識	人権教育の内容の充実	各学年毎の人権教育に係る年間計画の作成	人権教育推進委員会で統一ＬＨＲ指導案の原案を作成する	B	人権教育推進委員会で、各学年の人権教育の内容やＬＨＲの内容・指導案等の検討を行い実施できた。
			年１回、人権に係る講演を実施する	人権教育推進委員会での企画立案	A	本年は人権コンサートを実施し、話と音楽で生徒の感性に訴える取組みをした。
特色ある学校づくり	開かれた学校づくりの充実	教育内容の魅力化と中学生、保護者、地域社会への教育成果の周知徹底	ものづくり講習会や開放講座等の実施における実施時期、参加者数の改善充実を図る	中学生体験入学の実施 学科毎のものづくり講座の実施 ホームページでの参加募集など、広報活動の工夫を図る	B	体験入学には多くの中学生が参加し、進路選択の一助となったとの感想を述べている。ものづくり講習会を各科実施したが参加者が昨年より少なかった。講座内容、実施時期の検討と小中学校に向けての広報活動を考える必要がある。
			様々な教育成果や学校行事の実施状況を年２回中学校等に紹介する	学校情報の広報誌制作 ホームページの充実	A	広報誌は中学校へ年３回配布し本校の生徒の頑張りをＰＲできた。ホームページは頻繁に更新し内容も充実している。

評価項目 大項目	評価項目 小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
特色ある学校づくり	部活動による社会を逞しく生き抜く心身の育成	誰にも負けない「日本一の練習」に挑戦（熱意、挑戦、継続）	各種コンテスト入賞	顧問と生徒・保護者との連携（信頼と協力）による指導強化	B	写真部や吹奏学部など文化系部活動の頑張りが目立った。
			部活動各種大会の入賞（ベスト４以上の実現）	顧問の指導力向上（外部研修含む）	B	個人種目では、九州大会、全国大会へ出場したが、団体競技ではベスト４の壁は厚い。ベスト８に入る部は増えてきた。
			生徒達のやる気の喚起	大会内容や入賞結果の報告	B	入賞者は集会で表彰しているが、生徒たちのやる気の喚起のため大会結果の掲示も考えられる。
保健安全環境の管理	校内環境整備の充実	整理整頓の意義と意識を高める	各学期毎の校内美化週間を実施する	生徒会、管理部主催による美化コンクールの実施	B	美化コンクールでは特に美化に努めるクラスもあるが、そうでないところもある。コンクールの盛上げ方にひと工夫必要。
		教室、実習棟、部室等の管理意識の高揚	最低年１回の安全点検を実施する	職員による危険箇所等の安全点検の実施	B	毎学期の安全点検はきちんとなされていた。
		教職員が率先垂範し、 環境に対する責任ある態度	学校版環境ＩＳＯに取り組む	省資源、リサイクルの徹底 使用電力と水道の細やかな節減 排出ごみの削減、ごみ分別の徹底	B	資源ゴミの回収やごみ分別の意識は高まっているが、燃えるゴミの中に資源ゴミやペットボトル・缶等が混ざっている時もある。さらなる啓発活動が必要である。各科各教室ごとのゴミの計量により、燃えるゴミの量は、昨年より確実に減ってきている。使用紙の再利用については本年も実施できている。
	心身ともに健康な学校生活の実現	健康診断結果等をもとにした日常的な健康管理の充実と健康	心身の健康に悩みを持つ生徒の早期発見と支援保健（病気予防対策等）啓発	生徒、保護者、学校の連携の徹底 外部講師による講話の実施 保健委員会の開催 生徒情報の共有化を図る 毎月保健だよりの発行	A	性教育講演会や薬物乱用講演会、ＤＶ未然防止講演会を実施し、意識付けを行った。保健だよりを定期的に発行し、健康管理についての周知はできている。担任、養護教諭、科、学年の連携は取れている。
特別支援教育	特別支援教育の充実	個に応じた指導の充実	必要な生徒の個別の教育支援計画、指導計画を作成し、適切な支援を実践する	学科、学年を中心としながら全職員の共通理解のもとで支援を行う 家庭と学校との連携強化 療育機関との連携	B	学年会では、支援を要する生徒に対して情報交換は行われている。しかし、生徒に対する個に応じた指導や特別配慮では担任が中心的に対応を迫られ負担も大きい。支援体制の構築が急務であり、まだ学校全体の取組みには成りえていない。
		障がいや悩みを持つ生徒の情報の共有化と実践	月１回は科会や学年会で情報交換会を実施する 全職員による適切な対応策を徹底研究	生徒理解研修会の実施 専門家による校内職員研修会を実施する	B	生徒理解の情報交換会を、年度当初に１回、夏季休業中に１回実施したが、その後の手立てについては理解を深めることはできなかった。特別支援教育スーパーコーディネーターを招いて１回校内職員研修会を実施したが、様々な問題を抱えた生徒も入学してきており、もっと研修会を増やす必要を感じる。

４　学校関係者評価

○体力が全国平均より少し低いところは気になるが、学業、部活動、進路、生徒指導等はかなり優秀だと思う。ジュニアマイスター全国８位も含め、生徒のレベルは高いものがあるので、更に成長できるよう、ジュニアマイスター全国１位、欠席者も０名、生活指導を受ける者も０名を目指すなど、高い目標を設定したほうがよい。他校や地域への発信力があれば入学増につながると思う。さらに高いレベルの成長を期待できる学校だと思うので、部活動もベスト８より、ベスト４、決勝進出を目指したほうがよい。

○学力向上は勿論のこと、人間力を高めるという目標を重点に取り組みがなされている。本年度は科によって入学者数が大きな差となったが、子供たちがものづくりに対する魅力を見出し、工業高校を選択した結果ではないかとも思う。

○生徒たちに何か一つでも自信を持たせる、自信につながる教育を推進して頂き、八代工業高校ならではの特色ある学校づくりを期待する。

○10分間の朝読書は、落ち着いた学校生活のスタートはもちろん、柔軟な頭脳を育成し社会対応できる人間を育成する。是非続けて欲しい。

○課外、補習についてもやるべきことを確実に行う習慣化が出来ている。先生方の努力が、無欠席、皆勤、精勤生徒の増加につながっている。

○新体力テストで、入学時に全国平均より下回っている。部活動が活発で県ベスト８に残る実力があるので、文武両道をもっとアピールできたら、ポテンシャルの高い生徒たちが入学してくるのではないか。部活動の成績は立派なものである。更に上を目指して頑張って欲しい。

○すべての学科で「出口を保証する」、「一人前の人間に育てる」という思いが十分に伝わる取組が行われている。

○現在の生徒たちは自分の立ち位置がよくわからず、夢を抱くことができず無意味な時間を過ごし、就職したものの簡単に離職してしまうという話を聞く。進路指導時に、就職して、どういう仕事をして、どういう大人になるか。５年後、１０年後、３０年後のビジョンを少しでも明確にしていただくと、簡単に離職にはつながらないと思う。

５　総合評価

○学校目標と重点目標について、生徒へは１学期の始業式や終業式、保護者にはＰＴＡ総会や各学年ＰＴＡで話をしており、概ね浸透している。さらに認知度を上げるため、あらゆる機会を利用し周知を図る必要がある。

○学習向上においては、３割の生徒がアンケートで授業がよく分からない、分かりにくいと答えている。研究授業等により、分かりやすい授業を工夫するとともに、授業外における個別の対応も必要と思われる。

○資格取得については、各科とも課外に熱心に取り組んだ結果、ジュニアマイスターの取得者は昨年度を大きく上回り１４７名となった。本年度も全国ベスト１０入りは確実と思われ、生徒の励みになっている。

○環境美化については、保護者、生徒とも校内がよく整備されていると感じている。また、ゴミの分別に対する生徒の意識も高まっている。しかし、隅々までは掃除が行き届いてない現状もあり、美化コンクール等を通して環境意識と勤労意欲を高める必要がある。

○生徒達は資格取得や検定試験等に積極的に挑戦しているが、放課後は部活動の練習があり、試験勉強は、朝課外での集中した学習と、家庭での自主学習が主となる。家庭での学習が身についていない生徒もおり、家庭学習の習慣をつけるため、各教科で宿題や課題を検討する必要がある。

○進路指導については、３年学年団の頑張りもあり本年度も就職内定１００％を達成し大手企業にも多数内定した。進学においても国立大学に６名が合格を果たした。朝課外も定着しており遅刻欠席も少なく、１、２年も将来の進路決定に向け頑張っている。

○部活動においては、運動部では全国大会出場は、陸上部がインターハイに出場したのみであったが、弓道部や水泳部、陸上部、空手部が九州大会に出場した。その他の運動部も県ベスト８に入る力をつけてきている。また、吹奏楽部が九州大会、マイコンカーが全国大会、写真部が全国総文祭に出場するなど文化部の活躍も目立った。

○生活指導面においては、昨年指導にばらつきがあるとの保護者のクレームがあったため、基準に対する共通理解を図るとともに、服装指導の方法を変えた。しかし、生徒の半分が頭髪の基準が厳しいと思っており、頭髪服装指導の意義を生徒に理解させる必要がある。

○生徒の情報交換会は１回しか実施できなかった。学期１回を目指すとともに悩みや相談に関する体制作りをさらに図る必要がある。

６　次年度への課題・改善方策

① 学力の向上	○ 各教科の授業研究の更なる充実	○朝課外の内容充実	
② 資格取得の取り組み	○ ジュニアマイスター取得増加に向け、各科が連携した指導体制の確立		
③ 地域との連携と啓発	○ ホームページの充実	○ 学校案内パンフレットの充実	○ 年間を通した計画的な広報誌の発行
	○ 中学生や地域住民を対象とした「ものづくり教室」等の充実	○生徒挨拶運動や部活動等を通しての地域貢献	
④ 進路指導体制の強化	○ 就職・進学・公務員の指導体制の強化	○ 企業との連携強化、進路講話等の計画的実施	
	○ 家庭や関係部署との連携強化	○ 国立大学受験対策並びに組織化	
⑤ 校内組織の充実	○ 人権教育指導体制の充実	○ 特別支援教育体制の組織強化(職員研修と関係機関との連携)	
⑥ 交通安全教育の徹底	○ 自転車の交通マナーの徹底	○ 保護者会での交通安全についての啓発	